

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和7年3月21日

No. 32



令和6年度 卒業証書授与式 ～61名の卒業生の巣立ち～

卒業生は61名、しっかり前を見て堂々とした態度で、校長から手渡した卒業証書を受け取ってくれました。「別れの言葉」では、6年間の思い出を振り返り、仲間と共に過ごした時間の意味を考え直したのではないのでしょうか。また、6年生による合唱「変わらないもの」、5・6年生による合唱「旅立ちの日に」では、体育館に



綺麗なハーモニーが響き渡り感動的でした。

保護者、来賓、職員、5年生の子どもたちに見送られながら、愛宕小での思い出を胸に刻み、笑顔で巣立っていきました。卒業生の皆さんの中学校でのご活躍を心よりお祈りします。



3.11 防災の日 東日本大震災から14年目となります

鈴鹿市はこの日を「防災の日」と定め、市内小学校では防災に関する学習を行います。愛宕小では、予告無しで大地震発生を想定した避難訓練を実施し、終了後に校長による講話、愛宕地域づくり協議会環境安全防災部 部長の兼子様によるお話をオンラインで行いました。

まず、子どもたちが自由に活動している業間休みに「緊急地震速報」を流しました。直後の一次避難では、一人ひとりが落下物等の危険が少ない場所で身を守る行動をとります。教室に居れば机の下にもぐり、廊下等に出ていれば窓ガラス等から離れた場所で、ダンゴムシのポーズになって頭を守っている子どもの様子が見られました。その後、運動場への二次避難をする予定でしたが、この日はあいにくの雨で中止としました。



オンラインによる校長の話

内容は裏面に紹介しました

兼子様からは、R7.2.2、武道館で行われました「地域 避難防災訓練」の様子を紹介し、日頃の備えの大切さについてお話をいただきました。



2011年3月11日午後2時46分、東北地方を中心に、東日本大震災という巨大地震が起きました。大きな揺れと津波で、それまでの当たり前の生活は一瞬でなくなりました。電気ガス水道がとまり、思うようにご飯がつかれず食べ物が手に入りません。お風呂も入れません。通っていた学校も住んでいた家もなくなりました。仲良しの友達、大好きな家族が命を失いました。私たちは、この日を忘れることがないように、もったもった生きていたかったという思いが叶わず亡くなった方のために、そして今生きている命の大切さをかみしめ、このような大きな災害の備えをするために、愛宕小のみんなでお祈り、これを黙とうといたしますが、お祈りをしましょう。

・・・（黙とう）・・・

今日の避難訓練は、これまでと違い事前に地震がいつ起こるか、みなさんに伝えずに行いました。・・・どんな時でも、命を守るにはどうすることが一番よいのか判断し、それを行動にうつすことができるように、このような訓練が大切です。これは、毎日の行動一つ一つも同じことです。例えば、「早く遊びたい」という気持ちは分かりますが、突然教室から廊下に飛び出すという行動はどうでしょうか？横から人が歩いて来てぶつかり、大けがにつながったというケースは事実本当に起こっています。普段から、落ち着いて正しく判断、行動できる力を身に付けるよう心掛けてください。それは、本当に命の危険に直面するような状況になったときに、自分で自分を守る力になります。・・・・・・

この後は、愛宕地域で地震対策（防災）の活動をされている兼子さんのお話があります。地震はいつどこで起こるかわかりません。皆さん、もし家にいるときに津波警報がなったらどこへ避難しますか？そういったこともお話していただけたと思いますので、しっかり聴きましょう。

◆地域の避難防災訓練の時の様子(R7.2.2) ～兼子様のお話より～



①



②

【地域 避難防災訓練の様子】

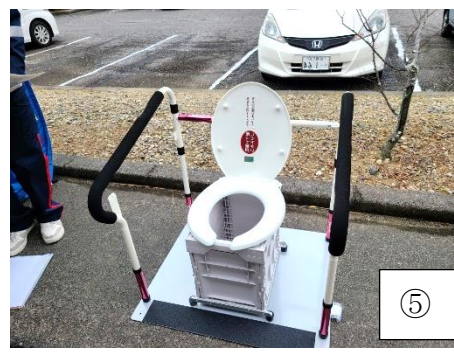
- ①地区別に分かれて避難
- ②煙体験
- ③防災倉庫の中の様子
- ④ボールベッドの組み立て
- ⑤簡易トイレの設置



③



④



⑤